

■論文題目	岩手県における地域防災リーダー育成に関する研修の比較研究		
■氏名(学籍番号)	後藤陽和(0412022306)		
■指導教員	杉安和也	■所属コース	地域社会・環境コース
■キーワード	防災	人材育成	岩手県

1. はじめに

災害とはいつどこで発生するかわからないものである。そのため、日ごろから備えることが非常に重要であるといえる。防災意識は一朝一夕で身につくものではなく、定期的に継続して防災を意識する機会や災害への知識をつけること、防災訓練の実施がされることが望ましい。岩手県内では過去に東日本大震災で津波を経験した沿岸部は防災意識が高く、防災訓練を定期的に行っているなどしており、地域防災が進んでいる例が多い。しかし地震災害のリスクはもちろんのこととして、近年は風水害も激甚化している。さらに岩手県は活火山である岩手山を擁していること、危機管理・国民保護の観点のもと、弾道ミサイルの飛来も想定する必要があることから、内陸部でも災害への備えは重要である。地域防災の取り組みのひとつに自治体独自の防災リーダー・防災マイスターの制度がある。この防災リーダー・防災マイスターとは各自治体で定められた講座を受講し、自治体によっては受講後さらに試験に合格した者に認定されるものであり、地域の防災意識を高めることと共助の働きをより強力にすることが期待できるものである。2025年12月時点で岩手県では県が主催するものの他に盛岡市・北上市・陸前高田市においてこの制度が制定されていることが確認できているが、県内全域で見ると普及しているとはまだ言い難い。地域の防災リーダー・防災マイスターに類似するものでは民間資格である防災士が存在し、この資格を取得するために受講する講座では居住地に関わらず日本国内で生活していて直面する可能性のある災害について広くカバーしている。そこで本研究では現在取り組みが行われている自治体の例を防災士の養成講座の内容を基準として比較検討し、その結果をふまえて現状での課題はなにか、他の自治体が今後防災リーダー・防災マイスター制度を導入するときどのような研修講座を設けることが望ましいかについて考察する。

2. 地域防災リーダー育成に関する研修事例

本研究では防災に関する講習の基準とする防災士養成研修講座と、2025年12月時点で岩手県で地域の防災リーダー・防災マイスター制度を制定し養成のための講習を設けている、岩手県・盛岡市・北上市・陸前高田市の例を調査した。このうち防災士養成研修講座および岩手県・盛岡市・北上市が開催している研修講座には実際に参加し、参加がかなわなかった陸前高田市のものについては市がホームページで公開しているカリキュラムを参照している。

3. 研修内容の比較

どの例でも地震、気象災害、風水害、土砂災害については講座で必ず触れられている。これらの災害は岩手県ではどの場所でも発生する可能性があるため、当然のことである。各自治体の取り組みを見比べた際に陸前高田市の取り組みが長期間かけて実施されることや施設の見学が行われていることが特徴的である。これは過去に災害により甚大な被害を被ったことにより防災意識がかなり高く、将来また災害が起こった際に被害をより少なくすることを非常に重要視していることが窺える。実施時期については北上市では平日と週末に日程を設けることで参加へのハードルを下げているが、これは他にはないものである。岩手県と盛岡市の取り組みでは、岩手山があるということで火山災害についての講座が設けられていた。岩手山は盛岡市や近隣の地域のみならず岩手県のシンボルとして生活の風景の中に存在しているが、活火山でもあり噴火時には広い範囲に大きな影響を及ぼすことが予測されている。また、近年の異常気象によりリスクの高まっている熱中症に気を付けるようにとの啓発や、弾道ミサイルが飛来した際の避難行動についても触れられており、幅広い事態への対応力を身につけることができる。

市が開催するものは内容がよりその地域の状況に特化してローカライズ化された内容となっているのに対し、県が開催する講座は広い地域を対象としているため幅広く普遍的な内容となっている。県主催の講座では他の市町村の防災リーダー・防災マイスターとの交流もできるため、これらの講座のどちらにも参加することでより災害への対応力の向上が見込める。

4. 研修に関する課題

座学の内容は充実しているものの、実践的な訓練を採り入れている事例は少なかった。実践的なもの、段ボールベッド、避難所の設営等の実体験を増加させることが望ましい。本研究で事例として取り上げた例では避難所の設営について行政の対応として取り扱っていることや時間・場所の都合としても避難所の設営を

する訓練の実施は難しいところもあるだろう。しかし防災リーダー・防災マイスター養成講座が自治体の防災担当の職員を対象としているところもあることに加え、非常時には自治体職員のみでの対応が困難な場合があるため、地域の防災リーダー・防災マイスターで防災・避難訓練（実施する側用）の講習等は選択となりうる。各事例を比較してみたところ、実施に当たって時期・日数・所要時間はそれぞれで異なっており、どの時期がより適切か、検討の余地がある。開催する自治体の受講者の繁忙期・休みの取りやすさで日時設定をせざるをえない点も注意が必要といえる。参加者が壮年の男性が大半であり、災害時に若い人、女性に相談したいような人を対象とし、それらの方々が参加しやすい体制も必要と考えられる。小学生向けのジュニアリーダープログラム等もありうる。小学生に災害時に頼りきることや判断をさせることで負担をかけてしまうことは避けるべきことではあるが、発災時に場に子どもたちしかおらず大人が助けることが難しい状況がないとは言いきれず、そういった状況を想定すると子供向けの防災講習があってもよいのではないだろうか。また、子どもが防災についての知識を家庭に持ち帰り、それを大人が聞き入れて実践することを考えれば、各家庭への防災対策の普及という点でも効果が期待できる。広報者に若人の採用も需要が上がりうる。また、受講後の定期的な更新、フォローアップ体制についても要検討といえる。

5. まとめ

自治体による防災施策として、地域の防災リーダー・防災マイスターを養成することは岩手県や県内のいくつかの自治体で実施されており、講習内容はその地域ごとにローカライズされて最適なものになっていることがわかった。自治体により熱中症対策などまで気象災害の枠で触れられている場合があり、どの範囲までを講習に含めるかは自治体によって違った。また講習の実施される日程も自治体によりまちまちとなっており、どの日程がより参加者を集めやすいかはまだ検討の余地が残っている。参加しやすさを重視することで内容が薄くなることは避けるべきことではあるため、どのようなバランスにするか見極めることが必要である。どの講習でも座学で受講する内容は充実していることに比べ、避難所の設営体験などの実技的な内容はなく、図上訓練でも避難所運営ゲームが行われた事例は少数であった。避難所の設営・運営は災害時の対応でも重要なものであり、地域の防災リーダー・防災マイスターが求められる役割を考えても避難所の設営をするための知識を身につける必要があるのではないかと考えられる。避難所の設営以外にも初期消火訓練や応急手当などを実技で行うことで災害時の対応力の向上が見込めるほか、防災リーダー・マイスター率いる自主防災組織主催で地域住民に向けた災害時の行動の訓練の実施ができるようになることで地域全体の防災力を高めることが期待できる。時間やスペースに限りはあるが、実技にも力を入れることは検討されるべきである。

表 1: 各事例の取り組み内容の比較

防災士教本	岩手県 (2025年11月実施)	盛岡市 (2025年11月実施)	北上市 (2024年2月実施)	陸前高田市 (2025年度実施要項参照)
災害発生のおそれ				
地震・津波による災害	○	○	○	○
気象災害・風水害	○	○	○	○
土砂災害	○	○	○	○
火山災害	○	○		
広域・大規模火災	○	○		○
災害に関する情報				
被害想定・ハザードマップ	○	○	○	○
災害関連情報と予報・警報	○	○	○	○
災害情報の活用と発信	○	○	○	○
公的機関や企業等の災害対策				
行政の災害対策と危機管理	○	○	○	
行政の災害救助・応急対応	○	○		
復旧・復興と被災者支援	○	○		○
災害医療とこころのケア	○			
ライフライン・交通インフラの確保				
企業・団体の事業継続				
自衛				
地震・津波への備え	○	○	○	○
耐震診断と補強	○	○	○	
風水害・土砂災害等への備え	○	○	○	○
災害と損害保険	○	○	○	
自助				
自主防災活動と地区防災計画	○	○	○	
避難所の設置と運営協力	○	主に市の災害対応としての 避難所設置・運営として	○	
地域防災と多様性への配慮	○			○
災害ボランティア活動	○			
防災士制度				
防災士に期待される活動	防災リーダーに期待される こと	防災リーダーに期待される こと	防災マイスターに期待される こと	○
防災士が行う各種訓練	○	○	○	○ 内容は確認できず
・クロスロード	○	○	○	
・図上訓練			○(HUG)	
救命講習				○
その他		弾道ミサイルについて 起震車での地震体験		東日本大震災津波伝承館見 学 東日本大震災津波伝承館 を見学し、津波被害の教訓 について学ぶ。 防災施設見学 海岸保全施設である防潮 堤や水門などを見学し、 ハード整備による災害対策 について学ぶ。

参考文献

1. 日本防災士機構(2023),「防災士教本【2023年度版】」
2. 令和7年度岩手県自主防災リーダー研修会
3. 令和7年度第2回盛岡市地域防災リーダー養成講座
盛岡市,「令和7年度第2回盛岡市地域防災リーダー養成講座を開催します。」,
(https://www.city.morioka.iwate.jp/kurashi/anzen_anshin/bousai/1024363.html), 2026/01/14 閲覧
4. 令和5年度北上市自主防災マイスター養成講習
5. 令和7年度陸前高田市防災マイスター養成講座